

フィクションとファクトから学ぶ医療倫理

科目責任者 奥田 竜也

学年・学期 1 学年・3 学期

I. 前 文

医学生が卒業時まで身に付けておくべき必須の能力（知識・技能・態度）をまとめた医学教育モデル・コア・カリキュラムでは、医師として求められる基本的な資質・能力の筆頭としてプロフェッショナリズムが挙げられており、プロフェッショナリズムの1つの要素として「医の倫理」を身につけることが求められている。医師はその職の特殊性からより高い倫理観を持って職にあたるのが社会から求められるが、倫理観は一朝一夕に身に付くものではない。

本講では、架空の出来事を想像的に描いた（フィクション）文学作品を読み解いたり、医療者、患者の立場からの事実（ファクト）に基づいた話を聴講したりすることを通し深く学修し、医療にまつわる様々な倫理的側面や問題点、生と死とは何か等を考察、議論する。このようにフィクションとファクトを通し、文理一体となって教育を行うことで、個々の学生が医師として求められる倫理観や死生観を自身で涵養していくきっかけとしたい。

II. 担当教員

奥田 竜也 【基盤教育部門】

前田 寿美子 【呼吸器外科】

廣田 美玲 【語学人文教育部門】

III. 一般学習目標

人の死の定義について理解する。

医療にまつわる倫理問題について理解する。

医療の潜在的問題点に気付く。

IV. 学修の到達目標

物事を多角的に見つめ、問題を抽出できる。

医療に関し、自身の考えや意見をまとめ、他者に正確に伝えることができる。

他者の考えや意見を聞き、議論することができる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)

2：ディスカッション, デイバート 3：グループワーク 4：実習, フィールドワーク 5：プレゼンテーション

6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	11	1	水	4	フィクションから学ぶ医療倫理①	廣田 美玲	2, 3, 5
2		8	水	4	フィクションから学ぶ医療倫理②		2, 3, 5
3		15	水	4	フィクションから学ぶ医療倫理③		2, 3, 5
4		22	水	4	フィクションから学ぶ医療倫理④		2, 3, 5
5		29	水	4	人の生と死, 生体移植ドナーから学ぶ医療倫理	奥田 竜也	2, 3, 5

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
6	12	6	水	4	移植医が伝える実際の移植医療にまつわる医療倫理	前 田 寿美子	2, 3
7		13	水	5	まとめ	奥 田 竜 也 前 田 寿美子 廣 田 美 玲	2, 3

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

各回の発表やグループワーク、ディスカッション（50%）、最終レポート（50%）として評価します。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

Mary Shelley（小林 章夫 訳）『フランケンシュタイン』光文社，東京，400 pp, 2010

その他，参考資料等は適宜配付／紹介します。

VIII. 質問への対応方法

随時受け付けます。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価対象項目については、全体向け講評を基本とし、必要に応じて、個別にフィードバックを行います。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前：詳細はシラバス別冊に記載する。特に記載のない場合は要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

事後：詳細はシラバス別冊に記載する。特に記載のない場合は講義内容をまとめておくこと。（所要時間の目安30分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載する。